
『大原社会問題研究所雑誌』 2010年度総目次

- (1) 2009年度の総目次は、2010年4月号（No.618）を参照されたい。
- (2) 2008年度の総目次は、2009年3月号（No.605）を参照されたい。
- (3) 『資料室報』第1号～『大原社会問題研究所雑誌』第599・600号までの総目次については、2008年10・11月号（No.599・600）を参照されたい。
- (4) なお、大原Webサイト（<http://oisr.org>）でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997年4月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web上での公開を行っている。

【2010年4月号 No.618】

【第22回国際労働問題シンポジウム】 経済金融危機と雇用問題——世界雇用危機にどう立ち向かうのか？

2009年のILO総会について 長谷川真一

危機からの回復：グローバル・ジョブズ・パクト——仕事に関する世界協定 ダンカン・キャンベル

政府の立場から 星田淳也

労働者の立場から 弘岡建史

使用者の立場から 高澤滝夫

経済危機と日本の雇用問題 樋口美雄

質疑応答

参考資料 危機からの回復：グローバル・ジョブズ・パクト——仕事に関する世界協定

書評と紹介 北野 収著『南部メキシコの内発的発展とNGO——グローバル公共空間における学び・組織化・対抗運動』 藤岡美恵子

小磯 明著『地域と高齢者の医療福祉』 朝倉美江

荻野富士夫著『多喜二の時代から見えてくるもの——治安体制に抗して』 梅田俊英

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』2009年度総目次

月例研究会 民主革命期の知識人運動 吉田健二

所 報 2009年12月

【2010年5月号 No.619】

【特集】 従弟制の変容と労務管理の生成——20世紀前半における経営革新とその担い手

特集にあたって 榎 一江

イギリス造船機械産業における管理革新の担い手

——職長・製図工・技師の機能と位置についての試論 小野塚知二

生成期大企業の組織・管理改革と工場徒弟制——GE Schenectady Worksのケース 関口定一

伝統的、経験主義的徒弟制から体系的、方法的職業教育へ——1925年フランス職業教育局「労働週間報告」の検討を中心に 清水克洋

	養成工制度と労務管理の生成——「大河内仮説」の射程	木下 順
書評と紹介	塚本一郎・山岸秀雄編著『ソーシャル・エンタープライズ——社会貢献をビジネスにする』	粕谷信次
	J. ハンター著／阿部武司・谷本雅之監訳『日本の工業化と女性労働——戦前期の繊維労働』	牧野文夫
	Jennifer Jihye Chun著 <i>Organizing at the Margins: The Symbolic Politics of Labor in South Korea and the United States</i>	鈴木 玲
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所	
所 報	2010年1月	

【2010年6月号 No.620】

【特集】	ドイツにおける管理職層の形成	
	特集にあたって	榎 一江
	ドイツにおける企業内教育と「職」の形成——クルップとダイムラーのホワイトカラー養成制度を事例として	田中洋子
	20世紀前半のドイツ化学企業における部長職の雇用管理：ゴルトシュミット社	石塚史樹
論 文	被保護母子世帯の開始状況と廃止水準	藤原千沙・湯澤直美
書評と紹介	白波瀬佐和子著『日本の不平等を考える——少子高齢社会の国際比較』	橘木俊詔
	佐藤卓利著『介護サービス市場の管理と調整』	中村律子
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所	
所 報	2010年2月	

【2010年7月号 No.621】

論 文	ドッジ・ライン下における日産自動車の人員整理——解雇対象者の属性に関する一考察	吉田 誠
	労働組合ヒエラルキーの理論分析	外館光則
	自動車部品サプライヤーにおける労働再編成と請負労働者の抵抗——T自動車グループ・アイズミテック社の事例をもとに	伊藤大一
資料紹介	大阪社会運動協会のオーラルヒストリーについて	島西智輝・梅崎 修・南雲智映
書評と紹介	田中恭子著『保育と女性就業の都市空間構造——スウェーデン、アメリカ、日本の国際比較』	権丈英子
	中村真人著『仕事の再構築と労使関係——世紀転換点の日本と精密機械工業』	高橋祐吉
	岡本歌子著『ある女性科学者の一世紀』	松尾純子
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所	
月例研究会	倉敷市における社会政策のあり方——環境、医療・福祉、雇用・労働の統合政策システムのパイロットスタディ	唐澤克樹・大平佳男・橋本美由紀・江頭説子
所 報	2010年3月	

【2010年8月号 No.622】

【特集】成年後見制度施行10周年を迎えて——現状と課題（1）

特集にあたって 菅富美枝

成年後見制度における「本人意思の尊重」——ドイツ世話法との比較から 上山 泰

法定後見制度における実体的開始要件に関する裁判例の分析 熊谷士郎

自己決定を支援する法制度、支援者を支援する法制度

——イギリス2005年意思決定能力法からの示唆 菅富美枝

論文 経済危機と在日ブラジル人——何が大量失業・帰国をもたらしたのか 樋口直人

書評と紹介 仁田道夫・久本憲夫編『日本の雇用システム』 松尾孝一

武川正吾著『社会政策の社会学——ネオリベラリズムの彼方へ』 平岡公一

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 生活史研究における課題と展望——ノーマン・K. デンジンの「解釈的相互作用論」再考 江頭説子

所報 2010年4月

【2010年9・10月号 No.623・624】

【特集】大原社会問題研究所創立90周年記念フォーラム

大原美術館コレクション

開会にあたって 五十嵐仁

戦前の社会研究センターと大原社会問題研究所 高橋彦博

大原社会問題研究所の創立をめぐる 二村一夫

日本近現代史研究と大原社会問題研究所 アンドリュー・ゴードン

大原孫三郎の社会・文化・福祉への貢献 大原謙一郎

質疑応答・午前

パネルディスカッション・質疑応答

大原社研フォーラム聴講記 木下 順

大原社研創立45周年記念講演：大原総一郎「大原社会問題研究所の誕生」 吉田健二

講演 生活・女性問題研究の途上で——体験的研究史を踏まえて 伊藤セツ

論文 雇用構成における産業間相違の規定要因——生産職場の比較検証をもとに 藤井浩明

書評と紹介 細井 勇著『石井十次と岡山孤児院——近代日本と慈善事業』 田澤 薫

渡辺めぐみ著『農業労働とジェンダー——生きがいの戦略』 倉敷伸子

佐藤幹夫著『ルポ 高齢者医療——地域で支えるために』 橋本美由紀

山崎 憲著『デトロイトウェイの破綻——日米自動車産業の明暗』 山縣宏寿

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

法政大学大原社会問題研究所2009年度の歩み

月例研究会 「近代母性」の検討——再定義の試み 松尾純子

所報 2010年5・6月

【2010年11月号 No.625】

【特集】成年後見制度施行10周年を迎えて——現状と課題（2）

権利擁護支援としての成年後見——地域における権利擁護支援システムの構築を目指して

上田晴男

成年後見制度をめぐる課題——福祉の経営の視点から 佐藤繭美

論文 社会的包摂における文化政策の位置づけ——経験的考察に向けた分析枠組みの検討 天野敏昭

全農全会派の解体——総本部復帰運動と共産党多数派結成 横関 至

書評と紹介 小野 一著『ドイツにおける「赤と緑」の実験』 坪郷 實

久本憲夫編著『労使コミュニケーション』鈴木不二一

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 生活協同組合における「職務基準賃金」への接近と「業態間」処遇格差 山縣宏寿

所 報 2010年7月

【2010年12月号 No.626】

【特集】フィランソロピーの研究動向の整理と文献紹介（1）

序論 フィランソロピー研究の現代的意義と用語の整理 岡村東洋光

イギリス——「フィランソロピーの帝国」の歴史 金澤周作

アメリカ——転換期にある民間主導のフィランソロピー 須田木綿子

ドイツ——キーワードとしての「市民社会」 中野智世

スウェーデン——福祉社会の模索 石原俊時

ロシア——フィランソロピーの「発見」 高橋一彦

証言：日本の社会運動 終戦の和平工作と政治犯釈放のころ——山崎早市氏に聞く（1） 吉田健二

書評と紹介 川俣修壽著『サリドマイド事件全史』 下田 守

吉岡吉典『ILOの創設と日本の労働行政』 五十嵐仁

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 労働雑誌『人と人』の発行状況——付『同窓会々報』・『主潮』発行状況 梅田俊英

所 報 2010年8月

【2011年1月号 No.627】

論文 労働時間の二重構造と二極分化 森岡孝二

成年後見制度と社会福祉 その接点から新たな可能性を探る 岩間伸之

「人身売買」の定義再考にむけて 「いわゆる人身売買」と労働搾取問題 佐々木綾子

証言：日本の社会運動 終戦の和平工作と政治犯釈放のころ——山崎早市氏に聞く（2・完） 吉田健二

書評と紹介 金杉秀信著・伊藤隆・梅崎修・黒澤博道・南雲智映編『金杉秀信 オーラルヒストリー』 山本 潔

松井保彦著『合同労組運動の検証 その歴史と論理』 高須裕彦

田中雅孝著『両大戦間期の組合製糸 長野県下伊那地方の事例』 榎 一江

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 ロサンジェルス社会運動ユニオニズム 鈴木 玲
所 報 2010年9月

【2011年2月号 No.628】

【特集】フィランソロピーの研究動向の整理と文献紹介（2）

インド—資金調達としてのフィランソロピーとNGOの活動 井上貴子

中国および香港—中国人社会の個性に注目して 帆刈浩之

日本—フィランソロピー研究における現状分析と歴史研究の課題 大杉由香

フィランソロピー研究の成果と課題 高田 実

ヨーロッパのユダヤ人フィランソロピーと社会発展—19-20世紀におけるロスチャイルド家の事例研究から クラウス・ヴェーバー／金澤周作訳

書評と紹介 熊沢 誠著『働きすぎに斃れて 過労死・過労自殺の語る労働史』 香山リカ

法政大学大原社会問題研究所・鈴木玲編『新自由主義と労働』 田端博邦

遠州尋美編著『低炭素社会への選択 原子力から再生可能エネルギーへ』 大平佳男

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 韓国労働社会運動の現状 ソウル訪問の経過と聞き取り 五十嵐仁

所 報 2010年10月

【2011年3月号 No.629】

【第23回国際労働問題シンポジウム】仕事の創出—新しい雇用戦略をめぐる

特集にあたって 榎 一江

2010年のILO総会について 長谷川真一

日本の雇用戦略について—労働市場の二極化改善を通じた質の高い雇用創出に向けて 鶴光太郎

政府の立場から 渡邊 学

使用者の立場から 高澤滝夫

労働者の立場から 新谷信幸

質疑応答

参考資料 雇用に関する反復審議に係る結論

読書ノート Alessandro STANZIANI ed., *Le Travail Contraint en Asie et en Europe XVIIe-XXe siècles* アジアとヨーロッパにおける強制労働 17-20世紀 清水克洋

書評と紹介 遠藤比呂通著『不平等の謎—憲法のテオリアとプラクシス』 横田耕一

矢野 久著『労働移民の社会史—戦後ドイツの経験』 森 廣正

社会・労働関係文献月録 法政大学大原社会問題研究所

月例研究会 日本の再生可能エネルギー政策とその普及に向けた政策転換 倉敷市水島コンビナートを事例に

大平佳男

所 報 2010年11月